

県民の声を無視する県議に10月回答を

4月20日に開催された「みやぎ東部健康福祉友の会」での佐藤信雄さん(塩竈市楓町在住、元中学校理科教員)の発言が大きな話題となりました。発言内容について寄稿していただきましたので紹介いたします。



私は中学校で理科の教師を36年間してきました。今なぜこの場(「友の会」総会発言席)にいるのか。多分、女川原発再稼働反対金曜日行動に毎回参加しており、県民投票運動で受任者になり、県民運動の宣伝カーの運転手をしたことなどで声がかかったのかと思います。

署名運動は昨年10月11月のたった2カ月で11万1,743筆が集まりました。しかし実際は11万8,796人から寄せられていたということでした。受任者と違う他市町村の方の署名や引っ越しをしてきたばかりで、選挙台帳に名前がないために無効にされた人が県全体で約7,000人もいたということです。実際は12万人近くの方が署名をして判を押してくれたということです。

自公県議、詭弁で条例否決

3月14日の県議会の委員会と15日の同本会議を傍聴しました。条例を作れとの賛成派の説得ある話はさすがでした。共産党の8人の県議がいなければここまで運動は盛り上がりなかったと思いま

した。議会の傍聴席は170席だそうです。そこに270名も集まり、議場に入り切らない人は1階ホールのテレビで議会の成り行きを見守りました。傍聴者がこんなに集まったのは宮城県政史上初めてのことだそうです。マスコミも多数来ていました。

それだけ注目を集めた県民の要望を自民党と公明党は否決しました。反対の理由はこうです。

- ①原発再稼働は国策である。
- ②投票には大金がかかる。
- ③再稼働賛成・反対だけでは民意の声をつかめない。
- ④署名数に地域間の偏りがあり、今後地域間でもめ事の原因になる。
- ⑤立地地域の雇用を奪いかねない。
- ⑥動かせる原発を止めることは電力会社の痛手になる。
- ⑦原発はCO2削減になりで地球温暖化ストップに寄与する。
- ⑧直接請求運動は議会否定につながる。
- ⑨女川、石巻、県知事の判断で十分である。そして⑩公明党の議員は県民条例運動はポピュリズムであり、大衆迎合主義であると発言したのです。公明党は県議会は県民の声を聴く必要はない、と発言して否決したのです。

県民無視の県議に回答を

これは投票になれば「再稼働反

対」の声が圧倒的多数になり、それをさせないため党議拘束をかけて否決したものと考えられます。

宮城県民の願いは宮城県議会には届きませんでした。皆さんの声に耳を貸そうともしない自民党・公明党の議員は10月の選挙で落とすしかありません。

この間一緒に傍聴していた多賀城の木伏さんは多賀城・七ヶ浜選出の県議に言われたそうです。「ここまでやれば、満足だろう」と。満足してない彼は言うてました。「その返事を10月の選挙で示したい」と。県民の声をふんぞり返って鼻で笑っている議員は退場させるしかありません。彼らの態度を県議会を傍聴して見てください。

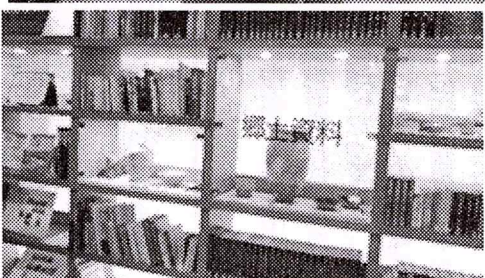
なお、4月14日に持たれた報告集会で「民意に応える県政をつくるために今後も頑張っていこう」と確認し合って「決める会」の活動は区切りをつけることになったことを報告しておきます。



かねて「『西行戻しの松公園』のソメイヨシノの満開と松島湾は見事」と聞いてはいたが、23日昼、ようやく見ることができた。時折吹く風に花びらが舞い歓声が上がっていました。(藤原)

春つららの4月18日、「多賀城市立図書館を考える市民の会」の8人のメンバーで、新築された名取市立図書館の見学に行ってきました。東北本線名取駅を下りてすぐ、改札口から図書館に通じる通路があり、そのまま図書館に入れます。館長さんの出迎えを受け、ちよと始まっていた「おはなし会」を見学させていただきました。図書館の下にある保育園の子どもと数組の親子が集まって、手遊びをしていました。「おはなしのへや」は児童コーナーの一角にありましたが、一つの部屋になっており、紙芝居の置かれた舞台の後ろには黒い布がかけられて落ち着いた雰囲気でした。

ボランティア室に移って、館長さんからお話を伺いました。名取市立図書館のコンセプトとして、①図書館は2・3階にあって駅からつながっていることから、2階は「にぎやかなフロア」として「カフェコーナー」を設け午前7時30分から開けて、市民が自由に出入りして新聞・雑誌等を読めるようにしている。②3階は「静寂のフロア」にして、郷土資料室を情報発信コーナー「名取の宝庫」として充実させている(これは公共図書館としての使われと館長さんは明言していました)。③には郷土の行政資料をはじめ、東日本大震災に関する資料を集め、過去から現在まで、様々な地域の情報を発信していること



名取市立図書館訪問記

見学をしても、そのコンセプトを感じることができ、とても居心地の良い図書館でした。「カフェ・モーツァルト」で、おいしい昼食・コーヒーを飲食し、満足して帰ってきた私たちでした。(小野ともみ「多賀城市立図書館を考える市民の会」)

いことでした。新しくICシステムもUIH帯を使用しており、長期休暇がなくても蔵書点検ができることでした(毎週月曜日・毎月第4水曜日、年末年始が休館日です)。驚いたのは、司書は正職採用を基本としていて、特に学校図書館司書も正規採用者としていことでした。それでも、年間の図書館の予算は1億6千万円で、多賀城市立図書館の年間予算の半分です。又、建設までに、高校生・大学生を中心にワークショップをしたり、地域19カ所出張ライブフリーミーティングを行い、市民の意見を聞いて設計に反映させたということ。名取市直営の図書館として、市民が寄り添い市民の図書館を作るという姿勢が館長さんから伝わってきました。